



旧百引村役場（輝北町上百引）

昔

昭和20年代



今



木造の風格ある庁舎で、昭和31年に百引村と市成村が合併して輝北町が発足した際に、百引に置かれた役場（旧百引村役場）として引き続き使用されました。明治3年に最後の地頭である高崎正風が現在の場所に地頭仮屋を建てたことが発端。現在、輝北総合支所として使用する建物は、昭和50年に建て替えられたものです。



昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

カノヤタイムトラベル

戦国時代に変遷した所領

天正19年（1591年）、豊臣秀吉は朝鮮出兵（文禄の役）を計画し、薩摩大隅を支配していた島津家へは総勢15,000人の動員が割り当てられました。

島津義弘は兵・船共に十分な数を集めることができず、わずかな供侍と小舟10艘を借りて海を渡りますが、国元に向け「日本一の遅陣を為せり」と窮状を訴えています。そこで、秀吉は軍役を果たさせるために島津家の経済基盤を強化しようと、後に肥後細川家の礎を築いた細川幽斎等に島津家直轄領の改革を行わせました。

文禄3年（1594年）には、五奉行の一人である石田三成が太閤検地を行い、大隅国約18万石



中津神社は1688年に池ん湖（上高隈町）から移転



多くの棟札が残るが、経年劣化により文字の判読は難しい

島津家全体で約57万8000石あまりを算出しました。このことは、島津家が後の慶長の役で軍功をあげ名誉を挽回する契機となりました。

一方、改革を行った幽斎には、肝属郡内の岩広村（現東串良町）、高隈村と細山田村（共に鹿屋市）から合計約3,000石が所領として与えられます。

その後、慶長の役の恩賞として幽斎の所領は再び島津家の所領に復帰しますが、上高隈町にある中津神社には、現在も慶長3年の細川幽斎の名による社屋改造の棟札が残っているとされます。